

研究課題	1人1台のiPadを活用した表現力の育成
副題	～Grow Up Time で思いを120%形に～
キーワード	表現力 プレゼンテーション iPad タブレット 発表 交流
学校/団体名	コロombo日本人学校
所在地	〒00800 No.4, Lake Drive, Sri Jayawardenapura Mawatha, Colombo8, Sri Lanka
ホームページ	http://srilanka.jscol.com/

1. 研究の背景

本校の児童生徒の実態として、人前で発表する時にあがってしまい堂々と話せないという課題が数年前から挙げられていた。特に本校のような在外教育施設は文部科学省からグローバル人材育成の拠点として示されており、今後国際社会を生き抜いていく子供たちが自分の思いを堂々と話せないことについて、本校では大きな課題として受け止めていた。

この課題を解決させるため、令和元年度から「Grow Up Time」という、表現力を高めるための活動が始まった。これは、毎週水曜の朝活動の時間（7時45分～8時00分）に、伝えたいと思うことを全校児童生徒の前で発表する活動である。発表する児童生徒は、自分の好きなものを紹介したり、あるテーマについて自分の考えを話したりするもので、令和元年度から2年間、継続的にこの活動を行ってきた。何度も発表する機会が回ってくるのが本校のような小規模校の強みである。そのような強みを生かし、繰り返し発表をしていく中で、児童生徒の発表に対する抵抗感が減り、人前でも少しずつ自信をもって話せるようになってきたことを実感している。

そして、令和2年12月にiPadが16台整備されたことを機に、今年度のGrow Up Timeはただ発表するのではなく、iPadを使って作成したスライドを用いてプレゼンテーションを行い、表現力の育成を図っていくこととした。また、コロナ禍によるオンライン会議ツールの普及により今年度は日本の学校や他の在外教育施設ともオンラインでの交流を企画した。交流会でもプレゼンテーションをする機会を設け、それに向けた取組を進めていくことでさらに児童生徒の表現力を高めることができると考えた。

2. 研究の目的

本研究の目的は以下の3つである。

- ①Grow Up Timeを軸とした様々なプレゼンテーションの取組を通して児童生徒の表現力を高めること。
- ②児童生徒の表現力を高めるためのiPadの効果的な活用法を明らかにすること。
- ③本帰国後、それぞれの教師が学んだことをそれぞれの帰任地で広めたり、新たな実践に発展させたりしていくこと。（※本校は全国各地の学校から派遣された教師で構成されているため）

右図は今年度の本校の研究のイメージ図である。



3. 研究の経過

本研究に関わる主な取組は以下の通りである。

時 期	区 分	主な取組内容	備 考
4月		・意識調査の実施（教師・児童生徒）	
4月	校内研修	・プレゼンテーションについての共通理解	
5月	総合的な学習の時間（情報）	・カメラアプリ、Skitch、Keynote の使い方の学習（注意点の指導含む）	・教員研修を兼ね教員も児童生徒と一緒に参加
5月	Grow Up Time	・相手に思いを伝える話し方の指導 ・スライド作成 ・発表の練習（学級ごと）	・臨時休校、オンライン授業
6月	Grow Up Time	・第1回個人発表 ・第2回個人発表の準備	
6月	校内研修	・研究の進捗状況の確認 ・座談会 ・他校との交流に向けた準備	
6月～	Grow Up Time	・第2回個人発表 ・1学期の個人発表の振り返り	
7月		・意識調査の実施（教師・児童生徒）	・1学期の振り返り
7月	校内研修	・1学期の振り返り ・2学期の取組の確認	
9月	Grow Up Time	・表現力を高める活動 「よく聞いて質問しよう」「●●と言うゲーム」 ・第3回個人発表についての説明	・臨時休校、オンライン授業
9月～	総合的な学習の時間（交流）	・交流会に向けた準備 (内容についての話し合い、役割分担、プレゼンの準備、練習、リハーサル等)	
10月～	Grow Up Time	・第3回個人発表 ・第4回個人発表の準備	
10月	総合的な学習の時間（交流）	・交流会（山形県高島町立高島小6年生） ・振り返り ・反省を次に生かすための活動	
11月	総合的な学習の時間（交流）	・交流会（神奈川県横浜市立旭小4年生）① ・振り返り ・反省を次に生かすための活動 ・サンパウロ日本人学校との交流 (調べ学習、プレゼン、ビデオレター作り) ・交流会（岐阜県恵那市立上矢作中）	
12月～	Grow Up Time	・第4回個人発表	
12月		・意識調査の実施（教師・児童生徒）	・2学期の振り返り
12月	校内研修	・研究全体の振り返り ・研究報告会に向けて	

1月		・研究報告会 ・「研究報告会の記録」の作成、配布	・外部への発信
2月	総合的な学習の時間（交流）	・交流会（神奈川県横浜市立旭小4年生）② ・ふり返り	
通年		・本校公式ウェブサイトでの発信	・外部への発信

また、今年度全校で取り組んだプレゼンテーションの概要は以下の通りである。

時期	活動名	テーマ
6月	Grow Up Time	第1回個人発表「自己紹介」
6月～	Grow Up Time	第2回個人発表「好きなもの」
7月	終業式	1学期がんばったこと
9月～	総合的な学習の時間	スリランカおよびコロombo日本人学校について
10月～	Grow Up Time	第3回個人発表「人との関わりを通して、自分が変わるきっかけとなったこと」
11月～	Grow Up Time	第4回個人発表「自由」
11月	総合的な学習の時間	ブラジルおよびサンパウロ日本人学校について
12月	終業式	2学期がんばったこと
1月	総合的な学習の時間	宿泊学習に関して自分で決めたテーマについて
3月	修了式	3学期がんばったこと

4. 代表的な実践

(1) Grow Up Time（以下GUTとする）

GUTの活動は「表現力を高めるための知識や技能を学ぶ活動」と「学んだことを実践する場（個人発表）」の2つに分けられる。

表現力を高めるための知識や技能を学ぶ活動

まず、年度初めの5月には、総合的な学習の時間（情報）と連携しながらそれぞれのアプリケーションでできる基本的な機能や操作を学ぶ学習を教師も含めた全員で確認した。

主にプレゼンソフト「Keynote」と画像編集アプリ「Sketch」を使用した。スライド作成に関わる学習と同時に、話し方についての学習も進めた。主に「声の大きさ」「話す速さ」「間の取り方」について、良い例と悪い例の映像を見せながら、どうしたら伝えたいことが伝わるか、考える機会を設定した。

9月には内容の深まりや話し方の向上を期待し、「よく聞いて質問しよう」「●●と言うゲーム」という活動を行った。

右の図は、「●●と言うゲーム」の活動の課題の1つである。

ことば 「おお」	①サッカーのしあいを 見ている おうえんしている チームが点をとったとき	②テストのけつかを くばられて いい点がとれたと おもったら 0点だったとき
	③はじめてのシーギリヤ へのりよこうで、 車のまどから シーギリヤが 見えたとき	④あしもとがかゆいと おもったら、たくさんの アリがあしの上を あるいているの を見たとき

学んだことを実践する場(個人発表)

個人発表は、毎回、右図のような流れで進めていった。特に、練習の際は練習の様子を撮影し、それを見ながら改善していくこととした。また、発表後のふり返しにおいても、本番の時の映像を確認しながら、できたことやうまくいかなかったことについて分析できるようにした。また、ふり返しをスプレッドシートに入力することで、いつでも自分の発表で感じたことを見られるようにした。

今年度のGUTでは、4回の個人発表を実施した。初回はKeynoteの基本的な操作技能を習得するため、スライドの枚数を制限し、できる限りシンプルに

作成させることとした。1回目で基本的な操作技能を習得することができ、2回目以降は枚数の制限を外し、児童生徒の発達段階に合わせてスライド作成を進められるようにした。

3回目の個人発表ではプレゼンテーションコンクールへの応募を見越し、テーマをコンクールと同じテーマにした。小学5年生以上については選考会を兼ね、教師による採点で選ばれた2名のプレゼンテーションを応募した。最終選考では、小学5年生児童の発表が最終選考会に選ばれ、奨励賞を受賞することができた。

(2) 他校との交流

今年度、本校は日本の学校3校(山形、神奈川、岐阜)、在外教育施設2校(ブラジル、パキスタン)と交流を行った。交流を行うにあたり、コロンボ日本人学校やスリランカについて紹介する内容のプレゼンテーションを交流の内容に組み込んだ。

交流会でのプレゼンテーションに至るまで

発表するトピックの検討、それぞれのトピックの分担については、全校児童生徒で話し合い決めていった。1人1つのトピックを担当し、1トピック2分程度を目安に作成させた。それぞれの分担はあるもののコロンボ日本人学校としての発表だということで、「チームコロンボ日本人学校」を合言葉に、スライド作成に取り組んだ。

交流会でのプレゼンテーションを通して

2回目の交流会終了後のふり返しでは、「〇〇さんの声が小さかった。」「●●くんのスライドがちょっと見づらい。」と児童生徒間での指摘が出た。指摘された児童生徒は、その場で練習したりスライドを修正したりした。これをきっかけに、話し方、スライド共に大きく改善された。



また、4回の交流会で同じ内容のプレゼンテーションを行った。しかし、聞き手の学年が全て異なっていたので、相手に合わせてスライドの言葉を直したり、話す言葉を変えたりした。その際も、全校を2つのグループに分け、グループごとに上級生主導でどのように直すか話し合いながら練習した。相手を意識した発表を行うことができたことに加え、同じ内容の発表を繰り返し行うことによって緊張せずに堂々と自信をもって発表できるようになった。

(3) 各教科での実践

各学級担任、各教科担任からも Keynote を使用した課題が出された。主な課題の例は右の表の通りである。

各学級担任・各教科担任からの課題の例

学 年	教科・領域	学 習 活 動
小学部3・4年	国 語	ことわざ・慣用句クイズ作り
小学部3・4年	学級活動	プロジェクト活動
小学部3・4年	社 会	学習のまとめ
小学部4年	理 科	筋肉と骨について
小学部4年	理 科	1年間の動植物の様子について
小学部5年	算 数	速さについて
小学部5年	社 会	日本の工業について
小学部5年	音 楽	世界の楽器調べ
中学部2年	音 楽	世界の楽器調べ

(4) 研究報告会

1年間の本校の取組について外部へ発信する場として、令和4年1月29日(土)に研究報告会をオンラインで開催した。研究報告会では、研究報告の他、今年度本校と交流した中学校の教諭、本校保護者、本校研修担当の3名によるパネルディスカッションを行った後、金城学院大学 長谷川元洋教授にご講評いただいた。研究報告会の記録はパナソニック教育財団のウェブサイト内に掲載されており、以下の URL からダウンロードすることができる。

https://www.pef.or.jp/school/grant/school_photo/20220224_02/

(5) 教員研修

今年度、本校は年間30回(本研究に関わるものは18回)の教員研修を実施した。機器の操作技能を学ぶ研修、進捗状況や今後の方向性について検討・共通理解する研修等様々あったが、数回に1回、定期的に座談会のような形で困っていることや思っていることを話す場を設定した。機器の操作や活用法について、意見の交流が行われた。また、教師も研修の中でスライド作成ソフトを用いて様々なプレゼンテーションを行った。

5. 研究の成果 (意識調査の結果から)

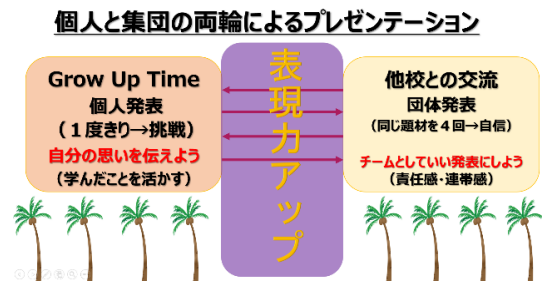
	みんなの前で発表することがす ぎですか。			みんなの前で発表することがと くいですか。			大きな声で発表 することができ ていますか。			話す速さに気をつけ て発表することが できていますか。			もっと上手に発表が できるようになりた いと思いますか。			Grow Up Time で発表すること はすぎですか。		
	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月
3年児童	◎	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	△	△	○
4年児童	△	△	○	△	○	○	×	○	○	△	○	○	×	◎	◎	?	△	○

上の表は年3回実施した児童2名に対する意識調査の結果である。いずれの項目でも、向上が見られる。

右の表は年度途中に編入した児童生徒も含めて12月

発表することが上手になったと思う理由は何ですか。(7人・選択式・その他あり)	
<u>Grow Up Time</u> で発表したから。	5
<u>交流会</u> で発表したから。	5
先生からのアドバイスがあったから。	4

に実施した意識調査の結果である。GUT と交流会の取組が表現力の向上に大きく影響していたことがわかる。右の図のように、GUT（個人）と他校との交流（団体）で発表を繰り返し行ったことが相互作用として働き、意識調査でも児童生徒の表現力（話す力やプレゼン資料作成能力）の高まりを実感することができた。



	今、ICTを活用して授業を進めることに自信がある。			ICTを活用して授業を進めることに不安がある。			ICTを活用して児童の表現力を高めるための効果的な指導をしていくことに自信がある。		
	4月	7月	12月	4月	7月	12月	4月	7月	12月
A	○	◎	◎	△	○	◎	○	○	○
B	×	△	○	×	△	△	△	△	△
C	◎	◎	◎	○	○	◎	△	○	◎
D	○	◎	○	○	○	○	○	○	○
E	△	○	○	×	△	△	△	△	○

上の表は年3回、本校教師に実施した意識調査の結果である。ほとんどの項目で、向上が見られる。

右の表は、12月に実施した意識調査の結果である。児童生徒の具体的な変化についての記述が見られた。

これらをふまえ、本研究の成果は以下の通りである。

児童生徒の表現力が向上したと思う。(5人)			
とても思う	少し思う	あまり思わない	思わない
4	1	0	0

具体的にどのような変化が見られたか、教えてください。(記述式・5人)			
<ul style="list-style-type: none"> 声の大きさや話す速さなどの話し方が向上したと思う。 効果を自在に操ることができるようになった。 効果を多用しすぎず、適度に使うことができる児童生徒も増えてきた。 話し方や、<u>見せるタイミング</u>を自分で考えながらできるようになった。 相手にわかりやすくしようとする努力が見られるようになったこと、<u>臆せず堂々と発表</u>できるようになったこと。 			

- ・Grow Up Time を軸とした様々な取組による、児童生徒の表現力の向上。
- ・iPad の様々な操作技能の習得、向上（児童生徒も教師も）。
- ・習得した技能を活かした、児童生徒の表現力を高める指導の展開。

6. 今後の課題・展望

今後の課題・展望は以下の通りである。

- ・児童生徒の国語力の向上及び発表の内容面での充実。
- ・インタビューによる情報収集や、実体験を伴った発表等、より説得力のある表現。
- ・カリキュラムの工夫及び新たなアプリケーションの活用。教員の研修の継続、発展。
- ・編入児童生徒及び新派遣教師へのフォローの体系化。

7. おわりに

今年度はパナソニック教育財団の助成に加えオンラインサポートの機会までいただき、充実した研究活動を進めることができた。今年度の研究の成果と課題を踏まえ、来年度も教職員一丸となってさらに研究を発展させていく。最後に紙面を借りて、パナソニック教育財団の方々、金城学院大学 長谷川教授からの多大なご支援ご鞭撻に深く感謝申し上げます。